



## 発生している輸送混乱の課題を明確にし、防災・減災の取り組みの強化と異常時対応力の向上を求める申し入れ

JR東労組は、災害に強い鉄道を目指し、組合員の声を基に労使議論を積み重ねてきました。津波注意区間については、全乗務員への実車訓練、地域・行政との連携、搭載品の拡充などを実施し、異常時に強い職場の構築の実現に向け取り組んでいます。

一方、大型台風等による災害時における鉄道運行面の課題が浮き彫りになり、世論や現場第一線からも不満や疑問の声が出されています。台風24号の対応では、安全第一とし首都圏全路線で行われた計画運休については評価を得ている反面、翌日10月1日の運転再開時の運行は初電からダイヤが大幅に乱れ、駅は電車を待つお客さまで溢れ返り、通勤・通学のお客さまに留まらず、海外からの旅行客にも多大なるご迷惑をお掛けしました。

また、現場で汗し働く組合員・社員からも、全面運休に対する現場との認識一致や体制が不十分であったことや、現場の意見や判断が反映されないとの声、乗務員手配が追いつかない、夜間作業における連絡漏れが発生したとの現実もあげられています。

JR 東労組は将来を見据え、この間取り組んできた防災・減災の視点も加え、異常時や災害時に強い鉄道を実現し、安全・安定輸送を労使で創り上げていく姿勢は変わるものではありません。その実現を目指す上でも「台風 24 号」対応におけるお客さまや地域の声と現場で発生した事実を把握し、原因の究明と職場の声を基にした対策を講じ実施すべきと考えます。

### 職場からの声に基づいて申し入れた項目

1. 9月30日の「計画運休」を実施するに至った根拠を明らかにすること。
2. 「計画運休」とその後の運転再開における、社内の情報共有について成果と課題を明確にすること。
3. 「計画運休」とその後の運転再開における、社外に対する情報提供について成果と課題を明らかにすること。
4. 10月1日の運転再開における課題を明らかにすること。
5. 台風等異常気象に対する、基本的な対応指針を策定すること。
6. 地域、お客さま、現場の声を把握し、災害に伴う輸送混乱対策を実施すること。

異常な気象災害が常態化しつつある昨今  
会社は組合員とお客様の命を守るために  
現場で働く私たちの声を聞くべきだ！

